

誰もが使いやすい施設になっているか、現地調査開始



日本共産党議員団は19日、市内にある公共施設のユニバーサルデザイン（年齢や障がいの有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすること）がどうなっているかの調査をはじめました。

今回の調査では、報告会で指摘された問題個所のうち、市役所木田庁舎の身障者用駐車場（写真中央）、高齢者支援課と国保年金課をむすぶ通路のドア（写真左）、高田図書館の玄関前の坂（写真右）を見てきました。身障者用駐車場では、路面のへこんだところに砂利を入れるだけの対応と なっているのにびっくりしました。また、障がい者がドアを開ける場合、使いにくいことも確認しました。

今回の調査は、先日の議会報告会（直江津会場）で議員団が約束したものです。報告会では、参加者の一人の方が「公共施設の中には車椅子で移動するのに不自由なところがある」として木田庁舎駐車場など具体的問題点を指摘しました。これを受けて橋爪団長は、「議員団として調査をします」と答えていました。この日の調査を終えた橋爪団長は、「今回は極めて

て短時間だったので見るだけの調査となったが、次回からは車椅子に乗って状況を確認するとか、目隠しをして歩くなどもっと深みのある調査をしていきたい」とのべていました。

新直江津図書館の名称めぐって議論

市議会文教経済常任委員会は19日、（仮称）直江津図書館・社会教育館整備について所管事務調査を行いました。

この中で、市教委は新たに整備される施設名を「直江の津学びの交流館」と決

定したと報告しました。

これについて上野公悦議員は、「本来施設の名称は、その施設がどんな内容のことを行う施設か、どこにあるかがわかるようなものが望ましい。『直江の津学びの交流館』では分かりにくい。施設のパンフレットや案内板には図書館・社会教育館であること をきちんと表示するなど工夫をすべきだ」と発言しました。

この日の夕方開催された直江津区地域協議会でも新施設の名称について疑問の声が相次ぎ、継続審議となつていきます。



脳脊髄液減少症検査、保険適用へ

厚生労働省はこのほど、「脳せき髄液減少症」患者の負担を軽減するため、検査については保険の適用を徹底



するよう、全国の医療機関に通知するかにしました。

この問題については橋爪議員が3月議会一般質問でとりあげています。同議員は、「治療についての保険適用は先送りされた。今後、国に対する働きかけがますます重要だ」とのべています。

議会の「生き字引」に感謝の集い

42年間にわたって上越市議会事務局員として働いてきた白石行雄さんを慰労する会が開かれ、現職議員、元議員など50人ほどの人たちが集いました。



白石さんは速記の名人。議会運営について精通していることから「生き字引」と言われ、多く議員等に頼りにされていました。ご苦労様でした。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.230 2010年4月25日

- | | | | |
|-----|--------|----------|----------|
| 連絡先 | 橋爪 法一 | 548-3628 | (吉川区代石) |
| | 樋口 良子 | 544-6802 | (中門前3) |
| | 上野 公悦 | 530-2203 | (頸城区中柳町) |
| | 平良木 哲也 | 525-9096 | (上中田) |

【お知らせ】橋爪法一著『「五センチ」になった母』の出版記念会が5月8日（土）午後1時から吉川区のスカイトピア遊ランドで開催されます。参加費は5千円（すでに本をお持ちの方はその分、安くなります）。お申し込みは党議員まで。写真は吉川区山直海の村松哲夫さん宅のしだれ桜です。（8日、撮影）